



元氣な園児たちと……

そうして、その時を機会に先生が好
きになり、数学の教科も好きになりま
した。今思えば、当時の先生の存在は
高い所にあり、とても近寄りたがい存
在でありました。まして、教頭先生と
もなればなおさらのことでした。しか
し、ノートに言葉を記していただいた
ことで急に身近な存在と感じられるよ
うになったのです。

こうして、勉強の方も順調に進み、
やがて、高校卒業を間近に「進路を決
める時」、資格を取得するため「学業と
仕事を両立させる時」、そうして新しい
職につき「行きづまりを感じた時」な
ど、現在に至るまでこの「初心・・・
歳月は人を待たず」という言葉は私に
とって教訓となり、くじけそうになる

私をなんと奮い起こさせてくれたこと
でありましょう。これからも、この言
葉が教訓となり私の支えとなつても
に生きていってくれるものと信じてい
ます。今でもノートに記されたあの赤
いペン字がくつきりと心に残り、懐し
く思いだされます。

私は現在、幼児教育の仕事にたずさ
わっています。自分のこのような体験
から、もつと幼い子どもにも心に残る
教育が大切だということ強く感じと
つています。十人十色、幼児も一人一
人性格が違い姿も様々です。その姿を
良くとらえて指導しなければなりません。
。

例えば、自分の殻に閉じこもりがち
な子にはそつと見守り、機会をのがさ
ず言葉かけをしたり、いっしょに遊ん
であげたりする。不安や緊張感のある
子には膚で触れ合い、やさしく言葉か
けをして安心感を持たせる。乱暴にな
りがちな子にはできるだけ良いところ
を見つけてほめてあげ、さらに認めて
あげる。愛情を持って子どもをみつめ、
そして子どもに好かれ、ある時は「友」
となり、ある時は「母」として、また
「教師」として子どもとともに学び、成
長し、少しでも心豊かなたくましい子
どもに育ててやりたい。そう願いなが
ら、幼児とふれあう保育の一日一日を
大切に努力を重ねているこのごろです。

(滝根町立滝根幼稚園教諭)

夏

森田 征子



今年の夏は、特に暑い。この暑さと
ともに、会津の人口もぐつとふくれあ
がり、会津弁の中に耳慣れない言葉が
入ってくる。そんな雑踏をかき分ける
ようにして「先生、先生：」と呼びか
ける声。にこにこして手を振りなが
らかけよってくる教え子に会うことも多
い。大きな声をだしてかけよってくる
のは、小中学生。にこにこしてかけよ
ってくるのは、高校生以上の教え子だ。

夏休みは、人と再会する機会も多く
出合いもまた多い。その出合いが、人
間・本・自然・言葉・動物とさまざま
であり、出合いも積極的に自分から求
めることもあるし、偶然の時もある。

「先生、A君が自殺したよ」と、悲
報の電話を受け取ったのも夏休みだつ
た。参観日には、いつも後ろでじつと

我が子を見つめていらつしやうした両親。
W高校から、また次の年A高校に進学
しなおし、その後大学に入ったこと。
いろいろなことを思い出しながら焼香
に出かけた。笑顔の写真には、小学生
のころの面影があった。両親の話の中
に「先生に会いたい。でも先生忙がし
いから：」と出かけては、途中で帰っ
てきてしまったことが、たびたびあつ
たと聞き「忙がしいから：」の一言が
強く胸をついた。

「会津で過した二年間がなつかしく、
大学卒業を来春にひかえ会津を訪ねて
みました。：先生にお会いしたかつた
のですが：」と卒業を待たずして「ガ
ン」で亡くなつてしまったK君の手紙
にも「忙がしいから：」という言葉で
結んであつた。

「忙がしいから：」「忙がしくてつ
い：」とか「忘れてしまつて：」と自
分の都合で、無責任に片付けて来たの
ではなかつたか。二人に出会つた時は
忙殺されそうな毎日、あの小さかつ
た教え子たちの目にも、それがわかっ
ていたのらう。なん十年前の私の姿
がそのままそっくり心の中に残つてい
たのかと思うとすまない気がする。

心の余裕があつてこそ、子どもたちの
表情や言動から、その子の気持ちによ
みとれるのらう。心の余裕は毎日の
授業ならば、十分な教材研究で生まれ
てくるらうし、それよりも職務に専
念できる環境に自分を置くことである。